

10. 附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：武山 雅志 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：長谷川教授、石川准教授、中道講師、金谷講師、竹田特任講師

委員補佐：曾根助教、桶作助教

事務局：寺沢教務学生課長、宮川主任主事

開催頻度：年4回開催

活動内容：

運営委員会では人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の報告を元に、全体のセンター事業の進捗状況を把握するとともに、提示された課題について検討した。また中期計画における年度計画に基づいて平成31年度事業の方向性について検討を行った。社会連携・社会貢献の適切性について大学コンソーシアム地域連携部会の事業評価項目を用いて、平成31年度事業案を対象として試行し、その問題点を整理した。地域や関係団体のニーズを掘り下げ、本学教員の研究テーマとのマッチングを進める参考に、山口県立大学地域共生センターを視察した。

平成30年度はかほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催し、意見交換を行った。平成28年度から始まった「健康ブランド化事業」を継続するとともに、新たに能登枠を設け能登地域に向く形での在宅療養移行に関する人材育成事業をを行った。

各事業について本学HPやメールマガジンを活用し積極的に情報提供するように務めた。

10.1.1 人材育成部会

部会長：石川 倫子 准教授

部会員：織田准教授、谷本准教授、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

人材育成事業の専門職研修として3講座、本学教員主催の研究会・事例検討会として6講座を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より研修会講師や看護研究指導の依頼が合計38件あり、年々増えてきている。

人材育成部会では、昨年度に実施した教育・研修のニーズ調査を基に、能登北部地区の医療・介護職を対象に専門職研修「能登北部医療圏の在宅療養移行支援を考える（参加者118名）」を実施した。また「新しい地域包括ケア時代のまちづくり」の研修を有料講座として実施した。いずれも地域包括ケアを確立していく時代のニーズに即した研修であり、平成31年度も継続して研修を実施していく。

10.1.2 地域活動部会

部会長：金谷 雅代 講師

部会員：林（静）准教授、川村講師、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

地域連携・貢献事業の地域連携事業として7事業、生涯学習講座として4事業を実施した。ワンストップサービス事業として1件の依頼があった。

かほく市子育て支援課との連携事業として、学生による託児ボランティアや絵本の読み聞かせ活動を定期的にも実施しており、この活動を支援した。また、かほく市長寿介護課のいきいきシニア活動推進事業の中で実施された「生涯現役」フォーラムで講演に協力した。宝達志水町主催の宝浪漫マラソンに救護班補助としてボランティア協力を行った。今後も地域のニーズに対応した活動を検討、展開していく。

10.1.3 国際貢献部会

部会長：中道 淳子 講師

部会員：阿部准教授、曾山講師、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

国際貢献事業のJICA日系研修において、日本人会幹部向けの2週間の視察型の研修を実施した。研修生2名（パラグアイ）は、首都アスンシオンで高齢者福祉活動を熱心に行っている方と、ピラポ移住地で日本人会の事務局長をされている方であった。これまでの研修生が行ってきた研修内容を熟知されており、今後のパラグアイでの高齢者福祉対策を組織的に推進していくことが大いに期待できるアクションプランを発表することが出来た。今後は、草の根支援事業にシフトしていくことが目標である。

JICA青年研修ではカンボジアから14名の研修生を迎え、予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層の知識と意識の向上を目指して、講義や施設の視察を行った。研修生の中に助産師が多かったことから、母性看護学の教員との交流会を開催した。また、茶道サークルの学生と茶道を通しての交流も行った。

国際貢献部会としては上記の研修について、JICA北陸および羽咋市社会福祉協議会と協議を重ねて円滑な運営に努めた。それぞれの研修中のカントリーレポートまたはジョブレポート発表と成果発表会は、関係者に加え学生の聴講も可能として開催した。開講式・閉講式を執り行うと共に、研修生に喜んでいただけるように工夫を凝らして歓迎会・送別会を実施した。